

「秋田林業大学校を中心とした林業技術者の養成」 ～オール秋田で林業県・秋田を支える若い人材を育成～

秋田県由利地域振興局 副主幹 佐々木紀之

1 はじめに

(1) 取り組みの背景

全国的に、林業の現場では林業従事者の減少、特に将来の林業を担う若い人材不足が大きな課題であり、本県でもその傾向は顕著となっています。秋田県では平成27年度から、北海道・東北地区では初となる就業前の林業技術者育成研修（愛称「秋田林業大学校」）がスタートしており、昨年度から即戦力となる若い人材育成に本格的に取り組んでいます。

①増加する素材生産と加速化する基盤整備

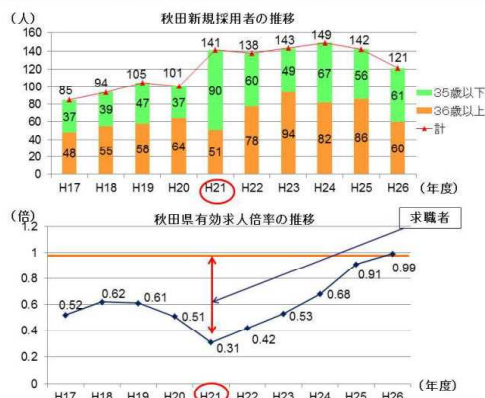
全国一のスギ人工林面積（蓄積）を誇る本県の森林資源は9齢級以上が50%を超え、いま正に資源造成期から資源活用期に移行しています。近年、施業集約化のため、路網整備や高性能林業機械の導入が加速化していますが、今後とも増加する素材生産に対応していくためには、低コスト生産システムを実践するための技能が不可欠な状況となっています。

②急務となっている若い人材の確保と育成

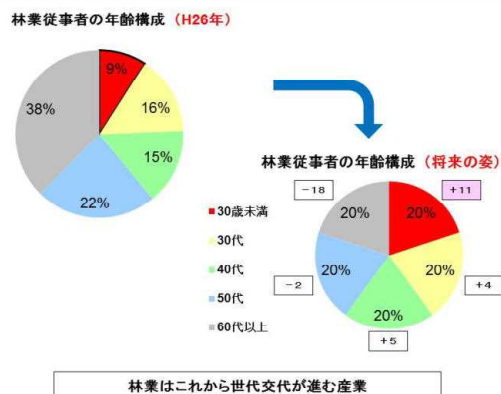
平成26年度末の本県の林業従事者は1,506人で、全体の37%が造林作業従事者で562人（前年比55人減）、63%が素材生産作業従事者の944人（前年比17人増）となっています。年齢構成は、60歳以上が最も多く全体の39%、30歳未満は10%にも満たない状況となっています。

新規採用者は増加傾向で、平成26年度は121人となっていますが、この中で新規学卒者は13%と低い構成となっています。今後は、路網を整備し川下の木材利用までマネジメントできるような技能者が必要とされていることから、特に新規学卒者を確保し即戦力となる人材育成を強化していくことが急務となっています。

秋田県の林業従事者



秋田県の林業従事者



2 取り組みの概要

秋田林業大学校では、将来の林業を担う若い技術者（＝林業トップランナー）を養成するため、基礎からしっかり学び2年間で実践力を身につけることを目標としています。

1年目は、基礎的な知識と技術の取得、林業機械の操作方法を学び、各種資格を取得させ、2年目は、専門的な知識と技術、機械操作の技能向上、林業経営マネジメントを学び実践力を習得させることとしています。

(1) 研修生の募集(H28年度)

・募集定員

推薦選考 10名程度

一般選考 5名程度(前期・後期) ※前期で定員数を満たしている場合は実施しない。

・申請資格

秋田県内の森林組合や林業会社等に就職希望がある30歳未満(H28年4月1日現在)の者で、且つ高等学校卒業(見込みの者も含む)または同等以上の学力を持った者。

(2) 研修の基本事項

・研修期間 2年間

・研修生数 15名程度／学年（平成27年度:18名、平成28年度:18名）

・研修時間 1,200時限程度／年（50分／時限）

・研修日数 200日程度／年（夏休み:23日間、冬休み:20日間）

・研修施設 秋田県林業研究研修センター内（秋田市河辺） 講義室：2室 O A室：1室（既存研究施設改装） 実習等：1棟 延床面積154m²（敷地内新築）

・研修場所 県・国・民間企業事業地 （県内の公私有林、製材工場、木材市場ほか）

・研修講師 県林業技術職員、外部講師



(3) 研修カリキュラム

科目毎に「達成目標」を掲げ、講師も研修生も目的意識を明確に共有しながら研修に臨んでいます。

① 森林・林業の知識と経営感覚の取得（5科目）

林業概論／樹木と森林／森林機能保全／林業経営／安全衛生

② 森林の造成・生産・利用の技術取得（13科目）

造林／測樹／森林保護／測量／環境緑化／特用林産／木材流通・バイオマス／
林産加工／木造建築／林内路網／林業機械／機械総合実習／講習・教育※

※仕事に生かせる資格

〈1年次〉

小型車両系建設機械特別教育、車両系建設機械運転技能講習、はい作業従事者
安全教育、伐木等の業務に係る特別教育、刈払機取扱作業者安全教育

〈2年次〉

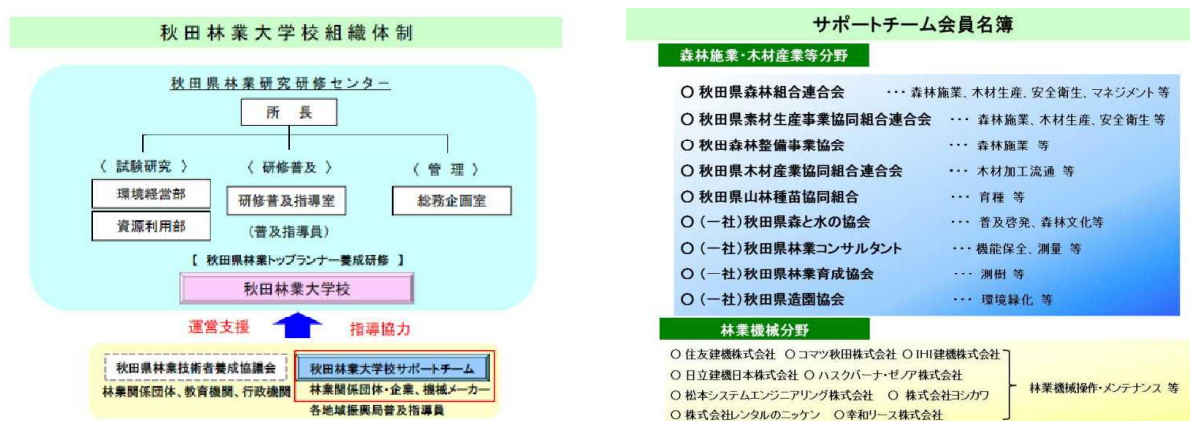
機械集材装置の運転に係わる特別教育、走行集材機械の運転業務特別教育、
簡易架線集材装置等の運転業務特別教育、伐木等機械の運転業務特別教育、
秋田県林業技術管理士

③ 資質を高めるスキルアップ研修（2科目）

インターンシップ／総合講座・実習

(4) 研修の特徴

「オール秋田で有能な人材を育成」をモットーに民間と行政が一体となった研修体制により、実践的かつ専門的知識及び技術を研修生に習得させます。



① 秋田林業大学校の羅針盤「林業技術者育成協議会」

林業・木材産業関係団体のほか、雇用や教育に関係する機関などで構成する「秋田県林業技術者育成協議会」が、研修方針や研修カリキュラムの検討、高校生や卒業生の進路状況や林業雇用情勢等について情報交換し、林業関係会社等が求める若い人材の育成に取り組みます。

②民間の力で研修をバックアップする「サポートチーム」

林業・木材産業等に精通した県内または県内に支店・営業所等を有する企業及び団体で構成する「秋田林業大学校サポートチーム」（林業・木材関係団体と機械メーカーで構成する18の団体や企業）が、講師派遣や研修フィールドの提供、インターンシップの受入などを行い、秋田林業大学校を県と共に支えます。平成27年4月に、県とサポートチームが研修協力に関する覚書を締結しました。

このようなバックアップ体制は、他県にはない秋田ならではの特徴といえます。県とサポートチームがしっかり手を組んで有能な若い林業技術者の育成に取り組んでいます。



森林施業プラン演習



チェーンソー目立て実習

3 今後の課題

①就職と定着への課題

研修カリキュラムの中でもインターンシップを重要なテーマとして、就職のマッチングと定着率の向上を目指す。定着を確実なものとするためには、普及指導員による企業訪問等、就業後のアフターケアを実施していく必要があります。

②林業事業体等の雇用改善

県内の林業事業体等については、雇用環境、雇用条件等の改善をさらに進め、新規就業者の選択肢となるよう魅力ある企業に育成することが重要と考えます。

③林業の成長産業化に向けた行政支援

今後林業が成長産業化していくためには、低コスト再造林の技術普及、新たな木材需要の創出など行政による継続的な施策の展開が必要です。